

## 地域資源を活用

### 奥出雲町観光協会研修会

六月二十六日、玉峰山荘で、奥出雲町観光協会研修会が開催され、町の観光協会、商工会、第三セクターの職員など約六十人が出席し、これからの奥出雲町の観光のあり方について考えました。

研修会では、島根県観光戦略委員で近畿日本ツーリスト(株)地域振興課長の福井善朗氏による講演が行われ、観光客の旅に対する目的やニーズが変わり、従来の名所旧跡を巡る一般観光から、自然や伝統文化の魅力を感じ取る体験型観光が主流となっていると話がありました。

福井さんからは「奥出雲町には、文化や伝統工芸、食材などの地域資源が数多くあり、伝統の技を持つ職人など魅力がたくさんあり、満足度の高い観光を提供できる」と呼び掛けました。

また、(株)リクルートの竹本和弘氏から、平成十九年度ギャップ調査で奥出雲町の



▲講演会の様子

状況の報告があり、近郊都市圏住民の約一割が奥出雲町を知っているに過ぎない。仁多米やソバなど食に高い関心を持っていることなどが紹介された。

町観光協会理事で商工会副会長の植田良二さんからは、奥出雲町の認知度がまだ低いということは、これから伸びる可能性があるということ。今後一層の観光振興に取り組みたい」と話がありました。

奥出雲町からも八団体十二

## 第三十八回

### 島根県スポーツ少年団剣道交歓会

六月八日、町民体育館で島根県スポーツ少年団剣道交歓会が開催され、県内から四十五チーム、約四百人の少年剣士が参加しました。

この交歓会は、各地域の剣道スポーツ少年団が集い、剣道を通して心身の練磨と礼儀作法を実践し、相互の親善を深めることを目的に開かれています。

奥出雲町からも八団体十二

チームが参加し、少学女子決勝トーナメントに進んだ、鳥上剣道スポーツ少年団が第三位に入りました。

開始の合図で試合が始まると、激しく剣を交え、地域の指導者や保護者の声援で、会場は熱気に包まれました。なお、大会運営には横田高校の生徒も協力し、大会を盛り上げました。

## 奥出雲町で実地研修

### 奥出雲町で実地研修

六月九日から五日間、国・県の要請を受け、今年四月に財務省、法務省、農林水産省、国土交通省へ入省した新任職員四名が、奥出雲町の企業や第三セクターなどを視察し、繁殖育成牧場で実習を行いました。

研修生からは「地方の実情について、資料や講義で得る知識とは質も量も比較にならないほど勉強になった。特に、奥出雲町の競争力のある農業推進や第三セクターのコスト



▲奥出雲椎茸での研修

意識などに関心を持ちました。今後の職務において、地方の独自性を常に意識して、これからの職務に活かしていきたい」など感想がありました。

## 元世界陸上日本代表の トップアスリートが 児童に指導

文部科学省と(財)日本体育協会の「トップアスリート派遣指導事業」に選ばれた布勢小学校(全校児童七十四人)が六月二十五日、三成公園陸上競技場で陸上教室に参加しました。



▲邑木さんから指導を受ける児童ら

同事業は、トップアスリートの経験と技術を子供たちに伝え、スポーツに親しむ習慣を身に付けることを目的に全国各地で行われています。

講師は、陸上競技の四百斤選手で、二〇〇一年のエドモントン世界陸上選手権大会などに日本代表として出場した邑木隆二さん(現・駿河台大学陸上部監督)。

児童たちは、邑木さんの丁寧な指導のもと、腕振りやもも上げなどの基本動作やバランス良く無駄のない走り方のコツを教わり、わずかな時間でフォームが改善され、走ることに楽しさを実感していました。

邑木さんは「カール・ルイスにあこがれて陸上を始めた。あきらめないで頑張り続ければ夢は必ずかないます。みんなも夢を見つけて楽しく、そして努力することが大切です」と話がありました。

今回指導を受けた児童の中から、将来世界の舞台で活躍する選手が生まれることを期待します。



▲神事の様子

## 吾妻山で

### 山開き安全祈願祭

国定公園「吾妻山」の山開き安全祈願祭が六月十四日、麓の第二駐車場で行われました。

祈願祭には、和泉副町長、議員、地元関係者や同じ吾妻山に接し交流のある庄原市比和町からの来賓など約四十人の参列のもと、今年の登山の安全を祈願しました。

吾妻山は、毎年多くの登山客や小学校の教育キャンプなど行われる夏山です。

また、麓の「つりぼり吾妻山」も幅広い年代で手軽に自然を楽しむことができます。今年も奥出雲の自然と癒しを求めて、多くの登山客、観光客で賑わいます。

## 町内の全児童が鑑賞

### 島根県児童演劇地方巡回公演 「山里からのおくりもの」



▲児童たちは楽しい時間を過ごしました

ています。

今年度の島根県児童演劇巡回公演が、島根県、奥出雲町文化協会の主催で、六月二十七日と三十日の二日間、町民体育館、横田コミュニティセンターにおいて開催され、町内の全小学生約八百人が舞台を鑑賞しました。

この公演は、児童たちに演劇や舞台などを身近で観賞する場を提供し、感動する素直な気持ちを培ってほしいと願う毎年行われています。

今回訪れた劇団は中四国地方を中心に活躍している「劇団風の子」で、これまで多くの学校などで公演を行っ

四季の移りゆく山里の自然が、中国地方の特産品でもある畳表や和紙を使い動物や植物、昆虫などを通じて情景豊かに上演されました。

また、虫笛、鳥笛などの擬音笛、赤貝をこすり合わせて出すカエルの声、竹笛にセロハンを張り、糸を付けてまわすセミの音などが見事に表現され、児童たちはお芝居とともに、様々な音も楽しみ、心豊かになるひと時を過ごしました。

この公演を通じて自然の大切さやふるさとの良さを学んでくれたことでしょう。